



桐生からくり人形芝居

桐生の観光の大きな目玉となっている「桐生からくり人形芝居」。有鄰館内のからくり人形芝居館は毎月第一土曜日に開館し、多くの見物客で賑わっている。出し物は、「曾我兄弟夜討ち」「巖流島」「義士討ち入り」「助六縁江戸櫻」の四演目に「羽衣伝説」が加わり、平成25年4月20日に芝居館で初上演された。＝写真＝

桐生のからくり人形は江戸時代に見世物などとして使われた「芝居からくり」という部類に属する。江戸期のからくりとして、他に「山車からくり」と「座敷からくり」があり、この二つは地域の芸能や個人の資料として残されたが、「芝居からくり」は見世物芸能として生き残ることができず、明治末までには消滅したと考えられていた。

これが桐生に残されていたことから、平成9年に専門家を招いて桐生倶楽部で開催された調査報告会で「気絶するほど貴重な文化財」と評価された。ここから桐生からくり人形芝居保存会（堀内幹本会長）の今日に至る芝居復活への取り組みが始まった。

「桐生からくり人形芝居」は桐生天満宮と桐生新町に深い関わりがある。桐生天満宮の臨時大祭・御開帳の際に各町会が飾り物として「からくり人形」を上演したのである。江戸期の嘉永5年（1852）から9回にわたり開かれた御開帳でからくり人形が上演された記録が残る。最後の開催は昭和36年（1961）であり、同年の人形を含め、主に昭和期の御開帳で使われた人形が各町会に残されていたのである。今回、復元された「羽衣伝説」は最後の年に桐生天満宮境内で上演されたものだ。

保存会のメンバーは、歴史の彼方に埋もれていたからくり人形を掘り起し、これを復元上演、さらにはレプリカまで作って本体の保存継承につなげるという丁寧な活動を行っている。

からくり人形には水車動力が使われたり、織機の製造技術が取り入れられたりするなど、織都桐生だからこそ継承され、発展してきたとも言える。桐生の風土や民俗、産業を背景にした貴重な文化財である。

- 住所／桐生からくり人形芝居館（有鄰館内） 桐生市本町二丁目6-32
- 連絡先／TEL.0277-46-4144

江戸期の「芝居からくり」
桐生の地で奇跡的に継承